

学校教育だより

学びの場



習志野市教育委員会発行

<http://www.city.narashino.lg.jp/kosodate/kyoiku/gakkyodayori.html>

習志野市鷺沼 2-1-1 電話 047-451-1151

令和元年11月20日発行 NO.111

公開研究会の秋



屋敷小学校公開研究会
〈表現運動〉

実りの秋

第111号 目次

- ◇《公開研究会～その1～》・・・・・・・・・・ 2
- ◇《公開研究会～その2～》・・・・・・・・・・ 3
- ◇《公開研究会～その3～》・・・・・・・・・・ 4
- ◇《完全実施に向けた外国語活動》・・・・・・・・ 4
- ◇《地域で活躍する子供たち》・・・・・・・・・・ 5
- ◇《習志野高校》《教育長コラム》・・・・・・・・ 6

学校で学んだことが、子供たちの生きる力となって、明日にそしてその先の人生につながって欲しい。これからの社会がどんなに変化しても、明るい未来を創ってほしい。そんな願いのもと、各学校が、それぞれの教科を通して子供たちの生きる力を育む授業を展開しましたので、紹介します。

実りの秋！ 公開研究会～その1～



大久保小学校 国語科

「主体的・対話的で深い学びを通して 思考力を育む国語学習」

～多様な情報を関連付けながら、読みを深める授業づくり～

子供たちが授業の中で、友達と意見を通い合わせながら自分の考えを深め、物語を何回も読み返して



新しい発見をしたりすることを通して、「読書を進んで行い、自らの世界を拓いていける読書人」を育成することを最終目標としました。

成果としては、物語をじっくり読むことの楽しさに気が付き、今後の読書活動への一助となったことが挙げられます。課題としては、物語の魅力に迫れる単元構成を模索していく必要があることが挙げられます。
(研究主任 伊藤 麻希)

大久保東小学校 国語科

「思考し表現する力を育む国語科学習」 ～主体的な読みにつながる指導の工夫～

主体的に読み、思考し、表現する児童を育てる事を目標に児童に思いや考え、問いをもたせる指導の工夫をしました。



児童と題材との出会いを大切にする環境づくりのため、筆者に会って話を聞くことや、白神山地の現地踏査、ウナギの飼育など、教材研究を体験的に深め、児童が「問い」をもち、主体的に言葉や文に着目して読むという成果が得られました。

課題は、児童の様々な「問い」を単元の中でどのように扱っていくかを検討する必要があります。

(研究主任 西林 圭悟)

袖ヶ浦東小学校 国語科

「豊かな読解力を育てる指導のあり方」 ～文学教材の読みの交流を通して～

発問や構造的に整理した板書、学習の足跡となるようなノート指導や掲示物を授業の中で効果的に活用したことで、子供一人一人が教材文の内容をしっかりと理解できるようになり、深い読みへとつなげることができました。



課題としては、言語環境の整備や、語彙の質と量の向上など、言語事項の指導の充実をさらに図っていくことです。

読書量を増やし、書く活動を日常的に取り入れ、ICTも効果的に活用して、「ことばの力」を伸ばしていきたいと考えています。

(教頭 松田 美基)

谷津小学校 生活科・社会科

「自分とのつながりを拓く 生活科・社会科の授業の創造」

社会事象や社会問題、生活の中の人や物、事、自然を「自分事」として捉えることのできる児童の育成を目指しています。



成果としては、キーワードとなる「つながり」や「自分とつながるとはどのようなことなのか」について共通理解が深まったことです。「どうすれば児童がつながりを実感できるのか」を考え、実践を重ねた結果であると考えられます。

課題としては、「整理・発展」に関する実践が少なかったことです。これからも職員が一つとなって研究を続けていきたいと考えています。

(研究主任 坂元 昭仁)



実りの秋！ 公開研究会～その2～

鷺沼小学校 生活科・理科

「知的好奇心あふれる授業の創造」

～自分の願いをもって活動する子を育てる手立ての工夫～(生活科)
～見通しをもって主体的に問題解決に取り組む子を育てる手立ての工夫～(理科)

生活科、理科生活単元学習において知的好奇心あふれる授業を創造することで、主体的に問題解決に取り組む子を育て、それが他の教科においても実践されるようにすることを目標に研究に取り組みました。場の設定の工夫や、五感を使った体験から学習につなげたことで、子供たちが存分に試し、主体的に取り組む姿が見られました。今後は子供たちの変容と評価方法の関連について検討を重ねていきたいと考えています。
(研究主任 佐藤 真南)



東習志野小学校 生活科・理科

「生き生きと活動する子供の学びを育てる」

～対話を通し、気づきの質を高めていく子の育成～(生活科)
～対話を通し、追究していく子の育成～(理科)

生活科では、恵まれた自然環境や地域との交流を生かして単元を構成しました。活動や体験を通して知ったことを誰かに伝えたいという思いが、更なる活動への意欲につながり、生き生きと活動する姿が多く見られました。理科では、事象提示の工夫により子供たちの意欲が高まりました。子供同士が意見を伝え合いながら、問いを解決していく姿が多く見られました。



今後は、思わず話したり、聞いたりしたくなるような問題作り、自信をもって伝えられる表現方法やグループ編成などについて、さらに研究を進めていきます。(研究主任 御園 あゆ美)

津田沼小学校 体育科

「知識・技能・体力向上を促す体育学習」

～関わりを通じた基礎体力の向上～

本校では、児童同士の有機的な関わりのある授業を実践していくことで、進んで考え、積極的に活動する子供を目指して取り組みました。各学級の授業では、子供たちがめあてをもって学習に取り組む姿や、仲間を励ましたり助言や補助をし合ったりする姿が見られました。児童同士を意図的に関わらせるために、運動に対する知識の定着や指導内容をさらに明確にしたり、教師が関わることで正しい動きや学び方を定着させたりしてまいります。



(教頭 柳澤 しのぶ)

屋敷小学校 体育科

「健やかな心と体を育むために」

～学び合いを通して～

どの授業でも子供たちが互いに支え合い、認め合いながら学ぶ姿が見られました。学び合いを重点にして実践に取り組んだことが、屋敷っ子らしい明るい表情と元気な声で、友達と呼応して体を動かす姿につながりました。



県内外から参加していただいた78名の方からは新しい気づきや今後のヒントをたくさん得ることができました。今年度の公開研究会の貴重な成果を普段の教育活動に生かして、健やかに子供たちが学ぶことができる学校づくりを継続していきます。

(教頭 加藤 努)



向山小学校 外国語活動・外国語科

「英語学習の基礎となる力を定着させる指導方法の工夫」
～ダイアログの系統性の整理と指導方法の工夫～

本校では、意図的に異年齢集団を構成し、多様な体験活動を実施する中で児童のコミュニケーション能力の向上を図っています。この特色を生かし、平成27年度から外国語教育の研究を進めています。

今年度、体験の積み重ねを重視し、基礎的な会話練習とともに、free talk activity を意図的に設け、児童が英語に触れる機会を多くした授業を展開した結果、先生や友達と英語を使って活発に話ができるようになってきました。

これからも、市内の先生方に役立てていただける研究を心がけて進めてまいります。

(研究主任 平山 靖)



第五中学校 全教科

「思考力・判断力・表現力を高める学習指導法の研究」
～可視化を意識した「主体的な学び」を促す授業～

研究主題により具体的にせまるため、今年度から「可視化を意識した『主体的な学び』を促す授業」に副題を変更しました。ICT機器の活用を広め、様々なツールや手法を用いて、授業の中で生徒に見える形にしていく方法を工夫しています。今まで以上に可視化を意識することで、生徒の授業への取り組みも意欲的になってきています。講師の先生からは、「学習課題の設定に、生徒自身が関わった実感を持たせられるとなお良い」との助言をいただきました。これからも継続して研究していきたいと考えています。(研究主任 中村 泰久)



小学校外国語・外国語活動 完全実施に向けて！



次年度より、小学校5・6年生では、年間70時間の教科としての外国語が、3・4年生では年間35時間の外国語活動が実施されます。平成23年度に小学校5、6年生で外国語活動が完全実施されてから9年目を迎え、大きな転換期を迎えようとしています。

今、小学校では学級担任の先生により、子供が生き生きと活動する外国語の授業が実践され始めています。音楽にのせて英語を口ずさむ「チャンツ」や、楽しみながら単語を覚える「ミッシングワード」「キーワードゲーム」など、担任の先生が元気に子供たちをリードしています。一生懸命英語を発音する担任の先生の姿に、勇気もらって取り組んでいる児童も少なくありません。

そして、単元の終末ではそれまでに慣れ親しんだ表現を使って、心の通ったハートフルなコミュニケーション活動が行われています。英語を使ったやり取りで得た情報を使って、友達にカードを作ってあげたり、インターネットで調べた単語をイラストにして、相手に分かりやすい自己紹介活動をしたり、教科横断的で、体験的な経験を積んでいます。そこには、英語を使えた喜びだけでなく、相手を喜ばせたり、自分の作品が認められたりする達成感があります。

児童の興味関心を捉える力と自らが学ぶ姿勢を示すことができる小学校の学級担任の先生方に期待しています。

(指導課 外国語担当)



地域で活躍する子供たち

MOA美術館習志野児童作品展

10月18日(金)～20日(日)にモリシア1FセンターコートでMOA美術館習志野児童作品展が行われました。市内から多数の応募があり、そのうち109点が展示されました。

丁寧な描写の作品やバスケットボールや野球などの躍動感あふれる場面を表現したもの、想像の世界を表現したものなど、見に来た人の心を動かすような作品がありました。



MOA美術館奨励賞
谷津南小 田中杏奈さん

福祉ふれあい祭り

第四中学校の特別支援学級では、福祉ふれあい祭りに参加し、一般のお客様に向けて販売活動を行いました。



「農作業では、炎天下の中で作物を育てるのはとても大変でした。予想以上に作物が育ったのでたくさん売れました。嬉しかったです」(3年男子)、「縫製品はチームに分かれて作成しました。シュシュは、裁断班、アイロン・ゴム通し班、布をかえす班、ミシン班に分かれてそれぞれの得意なことを生かして作業をしました。ゴムを通すのが難しかったです」(3年男子)、「当日



は、上手に呼びかけをすることができました。恥ずかしくない商品ができ、たくさん売れてお客様に喜んでいただき嬉しかったです」(3年男子)

大久保小では、学校で作った作品を飾りました。

「どこに何の材料を貼り付けるかを考えながら、作品を作りました」(6年男子)、「木の棒がうまくくっつくようにボンドをきれいに塗りました」(4年男子)、「隙間ができないように、材料を貼り付けるように気を付けました」(3年男子)。



スポーツ少年団体育祭



10月20日(日)、秋津小学校グラウンドにて、第45回習志野市スポーツ少年団体育祭が開催されました。市内の野球・ソフトボール・サッカー・陸上・バスケットボール・バレーボール・剣道などの各団体が一堂に会し、熱戦が繰り広げられました。



習志野市のスポーツ少年団構成員は約1,000名で、千葉市に次いで県下2番目の規模を誇ります。各団体代表によるリレーでは、「チームアクセル(陸上)」が見事に優勝を飾りました。

総合教育展

今年度も11月1日～7日の期間、総合教育センターで総合教育展が開催されました。近隣の学校等からたくさんの児童生徒が鑑賞教室でやってきました。また、休日には多くの保護者の方々が、ご家族そろって鑑賞に来ました。その数はなんと7日間で、5,989人！工夫の凝らされた作品を前に仕組みについて興味津々に眺めている親子の姿がたくさん見られました。また、園児から中学生までの成長や変化に感心したり、様々なジャンルの作品が一堂に会して見られたりするところが総合教育展の大きな魅力です。



税について学ぶ：習志野高校

3年生を対象に千葉西税務署の方々をお迎えして、租税教室が行われました。

テーマは「税について考える」。高校生にとって、税は普段意識したこともあまりなく、身近に感じることはありませんでした。しかし、アルバイト等具体的な話題もあり、改めて税に関して考える良い機会となりました。

映像やパワーポイントで、なぜ税金を払わなくてはいけないのかを分かりやすく説明していただきました。また税といっても、直接納める直接税や消費税などの間接的に納める間接税がある事、納める対象も、国に納める国税、地方自治体に納める地方税などのいろいろな種類がある事なども教えていただきました。生徒たちも、集中して担当の話聞くことができ、税金を納めることが、国民の義務であることを再認識していました。

スライドに使用した税の分類

区 分	直接税 (税を負担する人が直接納める税)	間接税 (税を負担する人と納める人が異なる税)
国 税 (国に納める税)	所得税 法人税 相続税 など	消費税 酒税 たばこ税など
地 方 税 (都県や市区町村に納める税)	事業税 住民税 固定資産税など	地方消費税 ゴルフ場利用税 入湯税など



～好きです ふるさと習志野～



教育長コラム

「むずかしいことをやさしく やさしいことをふかく ふかいことをおもしろく」劇作家の井上ひさしさんの言葉です。新聞のコラム欄で見つけたこの言葉は、ある大手芸能プロダクションの創業者が、劇作家である井上さんに頼んで色紙に書いてもらい、会社の受付に飾ってあるそうです。記事には「とにかく物事は難しく表現しがちだが、多くの人に理解されなければ意味がない。伝えることの難しさを考えさせられる」とあります。本市では10月3日から始まった公開研究会が11月15日で終わりました。1園、13小学校、1中学校が授業公開を行ったわけですが、全体を通してみれば「いかに伝えるか」が大きなテーマであったように感じました。子供たちが自分の考えや思いを相手にいかに伝えるか、学校として指導のあり方をいかに伝えるか、市として公開研究会の意味をいかに伝えるか、どれも単純な答えはなく難しい課題です。ただ、どれも「おもしろく」まで高めることができれば、「もっと勉強してみよう」「もっと研究してみよう」「もっと多くの人に見てもらおう」となるはずです。「魅力ある公開研究会にするにはどうしたらよいか」「働き方改革の中、意味のある公開研究会とは」を訴えてきました。各学校園の努力で「やってよかった」と言える公開研究会にはなりました。学校・園とともに、さらに改善を図ってまいります。

(教育長 小熊 隆)